

見つけよう防災の種

防災・減災・安全対策が「災害過保護」状態なのが今の日本。現代の私たちにとって幸せなこと、それは「どこの誰か知らない人が暮らしの安全対策をしている」ということです。『いやいやそんなことはない。私は知っている。道路なら行政が！マンションなら管理組合が！買い物に行ったらお店が！それぞれが安全対策をしている。どこの誰か知らない人ってことはない』と耳にします。では、行政の誰が？管理組合の誰が？お店の誰が？あなたの安全を担っていますか？考えてみれば担っている人を知らない場合の方が多いのです。ここで皆さんに伝えたいことは、他人に安全対策を丸投げするのではなく「最低限の安全対策は自分がしなければならない」ということです。

その為には、自分が生きていく上で「何が安全で何が危険なのか」を理解し、大きな災害の時のことだけを考えるのではなく、日常生活の中から考えておく必要

があります。簡単なことです。歩く

時に段差があれば、気をつけて足を上げなければひっくり返ってケガをする。

自転車に乗ったまま段差を乗り越えれば転倒してケガをする。これら解消するには、すべてをバリアフリーにして歩きやすいようにすることが必要で大切なこと。でも、転倒防止対策をしても、その人が気をつけていなければ、滑って転んでケガをすることも



することもあります。段差や窪みが無くなれば便利にはなりますが「安全になったか？」というのは、その人自身にあるということなのです。『子どもたちの遊び場に段差がある』ならば、子どもに「気をつけて遊ぼうね」と教えてあげることが重要です。お伝えしたいのは、「段差をなくした」＝「安全になった」では無いということ。どこまで行っても「気をつけて遊ぼうね」の意識を忘れてはいけません。

「気をつける」この言葉は本当に重要な言葉です。勘違いしないでください。 「怯える」と「気をつける」は全く違うものです。怯えて暮らす必要はありませんが、この世の中「気をつけて暮らす」！このことを忘れてはいけません。「気をつけて暮らす」これには、あなたひとりが気をつけるのではなく、あなたも含めた家族や友達・地域の人等、あなたの周辺の人達と一緒に気をつけることを考える。これが重要になります。実際のところ、自分ひとりでは「何が安全で何が危険なのか」は漠然として判断しづらいものです。ところが周囲の人の意見を聞くことで「気をつけて暮らす安全率」は飛躍的に向上します。それが「コミュニティを創る」ということであり、その為にコミュニケーションをとる必要があるのです。そんなこと

言われなくても「安全対策は十分だし、今までの生きてきた経験値で十分に分っています」と言う方もいます。問題はそこにあります！「今までの生きてきた経験値」。人によって、この値に大きな差があることを分っていないのです。「難しいことを言うな」とお叱りを受けるかも知れません。でも、自分が簡単なことだと思っていることほど、実際は知っているだけで「理解できていない」のです。例えば、『1+1は、なぜ2になるのか？』『風はどこから吹いてくるのか？』ご存知ですか？こんな簡単なことすら理解できていないのに日々の安全対策を理解しているとは思えません。しかし、グリーンシティの方々には恵まれています。「防災とは何のためにするのか？」このことは皆さんよくご存知ですよ。そう「防災とは自分の大切な人を守ること」で、皆さんがご存知のこんな当たり前のことが世間ではあまり知られず理解されていないのが防災・減災・安全対策の現状です。



自分の大切な人を守るために何をすれば良いのか？それはあなたにしか判りません。あなた自身が考えて、もし答えが見つからなければ家族や友達、近所の人に聞けば良いのです。「答えを出さずに終わってはいけません！」必ず答えは見つける必要があります。その答えを見つ

ける方程式や公式となるものが「防災活動や地域活動への参加」なのです。参加して間がない頃は誰だって自分の意見や答えと違うことが多く、その時には腹立たしく思えるかも知れません。でも他の人の答えが、個人だけのことを考えたものでは無く、みんなのことを考えた「答え」だとすれば一歩あゆみ寄ってみましょう。何故意見が違うのか？どのような差異があるのか？それを考えてみた時、きっとあなたは「新しい答え」を生み出します。その答えは年月が経つと変化します。ひょっとしたら数年後には正反対の答えに行きついているかも知れません。それでも良いのです。「新しい答え」を生み出すこのことが日々の中で大切なことです。

防災活動も「ソフトウェア」より「ハードウェア」の充実を訴える方が少なくありません。災害直後には「ソフトよりハードの整備の方が必要だった」といわれる意見が多いのも事実です。それはその通りです。すぐにも物（ハード）が必要な時期なので「ハードウェアの整備」となります。しかし「ハードウェアの整備」には資金が必要。人によって「必要なハードウェア」にも違いがあります。その違いを整理するために「災害が発生するまでの時間の中で考える」議論（ソフトウェアの整備）が重要なことです。こんなことも私たちグリーンシティが20年間考え続け、色々な答えを生み出し続けたからこそ気付いたことなのです。



あなたも「気をつける」この言葉について家族で話し合ってみませんか？